

いま あす  
～現実を見つめ、未来を紡ごう～ 「生きる力」を育む「学び」の創造

# 府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会  
第9号  
2019年1月22日発行

## 第3回 研究部会、第6回 オープンセミナー「多文化教育」チーム企画のご報告

皆さん、明けましておめでとうございます。

本年も府立人研事務局をどうぞよろしくお願い致します  
さて、府立人研通信 第9号では、第3回 研究部会と  
第6回 オープンセミナー「多文化教育」チーム企画のご報告をさせていただきます。  
多くの教職員の方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。  
また次回、お会いできるのを楽しみにしています。

### 第3回 研究部会

11月30日（金） 府立市岡高等学校

#### 教材部会

#### 一人一人が安心して過ごせる学校へ ～「自分を見つめるHR」の実践と 教職員人権研修 交流会～

報告

府立福井高等学校

第1部では、「学校を生徒たちが一人一人安心して過ごせる場にするため」の取り組みとして、府立福井高等学校より、「自分を見つめるHR」の報告があった。

府立福井高等学校では、1年生の新しい環境の中で、「自分を見つめる」人権HRを3回シリーズで行っている。先輩の文章を読むことから始まり、

自分の悩みや課題を書き、自分と向き合う。仲間の文章をシェアすることで、同じ悩みがある子がいるという安心感がうまれる。



また、さまざまな背景をもつ生徒の存在が認識できることから、お互いに違ってよいと思えるクラスができていく。人権HR担当者の強い思いを各担任にぶつけていくことで、担任がその思いを理解し、生徒に自分のことばで伝えることができる。

第2部では、府立大正高等学校と府立阿武野高等学校より、「教職員人権研修」の実践報告があった。「教職員人権研修」は各校の生徒の状況や、教職員の困り感を把握することで、作り上げるものである。教職員間の人権意識の温度差や担当者が苦勞している課題などが見えてきた。



グループに分かれ、各校の現状を共有した後、持ち寄った教材の報告を全体で行った。

## ケーススタディ部会

### 実践編！ 事例検討をしてみませんか？

～支援につながる効果的なケース会議の持ち方～

講義

府立高槻支援学校



発達障がいのある生徒の特性と効果的な支援・指導の方法について、府立高槻支援学校からお話があった。まず、発達障がいの類型と行動の特性についてわかりやすく解説があり、接し方のポイントにも触れていただいた。問題となる行動については、当事者と“原因”を一緒に考えるためのマインドマップやストラテジーシートが有効であるとのことであった。生徒の困り感に寄り添いながら、どうすればいいのかを一緒に考え、生徒に「もしかしたら、こうなのかも」と考える習慣をつけることは多様な考え方の提案につながるという言葉が印象的であった。

参加者による事例の検討では、準備・初期対応・継続的な指導など多角的に事例を検討し、深く討議をすることができた。早速、現場でも活用できるスキルを身につけることができた。



## 進路保障部会

### 進路保障のあり方③

～食べること・働くこと・生きること～

講師

北出 新司さん(北出精肉店店主)

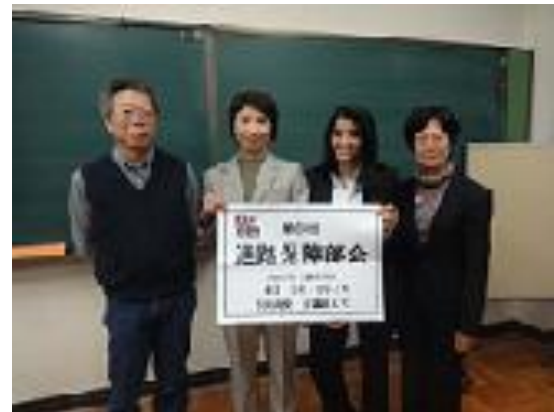
対談・報告

府立高校卒業生(某バーガーチェーン勤務)

府立市岡高等学校

報告

府立布施高等学校 定時制の課程



第1部は、「食肉の仕事に生きるということ ～そこにあるのは日常の風景～」と題して、北出新司さんより、「ある精肉店のはなし」の映像を交えながら、地域の暮らしや家業の精肉店のことをお話しいただいた。

第2部前半は、「My family イスラーム ～私は日本で働くのっ!!～」と題して、府立市岡高等学校の教員と府立高校卒業生との対談があった。パキスタンから日本へ来ることになった経緯や学生時代の話、日本での生活について感じたことなどのお話であった。彼女は現在某バーガーチェーン店で働いており、自身の宗教観についても話があった。対談の中で、「私は日本へ来て、高校へ行ってよかったと思う。高校で勉強したから、私は自分のことを自分で決められるようになった。誰にもすがらなくていい。もし、勉強していなかったら、自分で自分のことを決められなかったんじゃないかって思う。私は自分で考えて、自分で決める。私は私。私は日本で暮らす、そしてこれからも私は日本で働きたいと思う」という言葉が力強く印象的であった。

第2部後半は、前半で対談された府立市岡高等学校教員より、「私の出会った生徒 ～ヒジャブ・

ラマダン・水泳～」と題して、前任校で出会ったアフガニスタン出身の女子生徒とのお話をいただいた。初めての水泳の授業にまつわるエピソードや彼女が平和を願って描いた一枚の絵についてのお話であった。

第3部は、府立布施高等学校定時制の課程より、「定時制、夜の保健室」の報告があった。第2部で対談をしてくれた卒業生の姉が在籍していた頃、イスラム教のお祈りのために保健室へ通っていたことや、近年移り変わる定時制の生徒の現状等を小中学校で勤務されたご経験も交えながらお話しいただいた。

今回の進路保障部会では、普段併せて聞くこと

があまりないお話をうかがうことができ、非常に有意義な会であった。

大阪の学校に通う全ての児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう、教職員として“進路保障とは何か？”を今一度考えていきたい。



## 第6回 オープンセミナー「多文化教育」チーム企画 朝鮮学校の取り組みと ～南大阪朝鮮初級学校の見学・交流～

12月14日（金） 南大阪朝鮮初級学校



今回、住之江区にある南大阪朝鮮初級学校を見学した。校舎内では4年生から6年生が各教室で日本の地理や歴史、国語の授業を受けていた。授業中の会話は主に韓国朝鮮語で、時折日本語も織り交ぜながら行われていた。

校庭では1年生から3年生の児童たちがドッチボールをしており、1階には幼稚園が併設されていた。各学年の児童数は3人から5人ほど。どの小学校でも見られるような活き活きと授業を受ける姿があった。

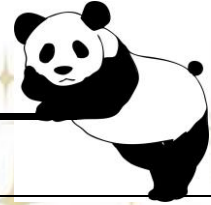
授業見学の後は学校長にお話をいただいた。授業カリキュラムに関しては日本の学校に準ずるように設定されており、日本での定住を前提とし、日本社会で活躍できる児童を育てることを目的としているとのことであった。

お話の後はグループに分かれ、南大阪朝鮮初級学校の先生方との交流会が行われた。戦後、不安定な状況にあった朝鮮学校が永住志向を強めていくことで徐々に日本社会に受け入れられてきた一方、現在も朝鮮学校を取り巻く問題は多くあ

ることが交流の中で分かった。厳しい状況の中、それでも朝鮮学校で学ぶ児童・生徒の姿、またその保護者や勤務している教員の思いを考えると心に来るものがあった。

このような児童・生徒たちが大阪にはいるのだということ、多くの人が知り、関心を持ってこの問題について取り組んでいく必要があると感じた。





**1月25日（金）午前10時より 府立市岡高校にて開催**

大阪メトロ・JR環状線「弁天町」駅より東南東へ約400m

日 時:2019年1月25日(金)  
10:00~17:00(受付開始 9:30)

場 所:府立市岡高等学校

アクセス:

大阪メトロ中央線・JR環状線  
「弁天町」駅(東口から)東南東へ約400m



資料代は¥1,000です。  
大人教南河内大会へ参加された方は、  
参加券の提示で資料代に代えさせていただきます。

★お願い **名札とスリッパ**をご持参ください。

別紙【申込用紙】にて、希望の分科会を記入していただき、Eメールまたは送付便、FAXにてお申し込みください。  
お気をつけてお越しください。お待ちしております。

午前・全体会

これからの同和教育・人権教育を培う未来を切り開く“力”  
～仲間とつながる市民性教育～

講 師：若槻 健さん (関西大学 教授)

午後・分科会

第1分科会	第2分科会	第3分科会
生徒が社会とつながる授業 ～松高版「子ども食堂」の取り組み～	発達障がいの子どもの 「できる」を増やす 提案・交渉型アプローチ ～叱らないけど譲らない支援～	福祉と教育、生徒支援の ネットワーク ～プラットフォームとしての学校～
報 告  府立松原高等学校	講 演  武田 鉄郎さん (和歌山大学 教授)	報 告 ・堺市ケースワーカーのみなさん ・水流添 綾さん (一般社団法人 こもれび 代表理事) ・府立人研 教材・資料開発プロジェクト 「定通教育」チーム

